ペリリュー島戦跡巡り

2026年11月5日（木）

ツアーガイドは29歳の日本人男性

- 厚労省や地質学者・人類学者やご遺族、遺骨収集団体と協力して遺骨収集。ペリリュー在住。
- 子どものころから両親が戦跡巡りに連れて行ってくれていた。
- 小学生の頃パラオに来て酒癖の悪いおじいさんと知り合い、パラオの戦争の話を聞かされた。「本来、日本がちゃんと伝えるべきことだ」と言われ、自分の心に火がついてしまった。
- その後息子さんと交流が続き、パラオで働くことを決意するに至った。
- 大学卒業後すぐにパラオに来たかったが、コロナのためパラオは鎖国状態。おじいさんもコロナで亡くなってしまった。
- 息子さんから遺骨収集もしている旅行社を紹介され、就職したのが今の会社。
- 遺骨を誰のものかというところまで特定し、お届けするのが目標とのこと。

コロール島から高速ボートで約1時間





他に日本人は大人4人と小学生（？）5人、親同士が兄弟かな？「ちょうど学校でも戦争のことをやっているし、良い機会だと思って連れて来た」とのこと。

ロックアイランド

（写真提供：MITSUDAさん）



- コロール島とペリリューの間には445の島々がある
- 古代のサンゴ礁が隆起してできたサンゴ礁の島
- 2012年、ロックアイランドと周辺のラグーンは世界遺産に登録された

ペリリュー島到着

「ペリリューは日本の兵隊さんのお墓。アメリカは戦争が終わると戦死した兵隊の遺体は全部持ち帰った。日本の兵隊さんの遺骨は今もペリリューにある」
（『玉砕の島ペリリュー』より）





上空から見たペリリュー島

（写真提供：MITSUDAさん）



- パラオ諸島の島々は隆起サンゴ礁に囲まれ、天然の防波堤の役割を果たしている
- 大型船舶が波止場に着岸できるのは、リーフの切れ目に繋がる水道に恵まれているところだけ
- パラオがトラック島と共に日本海軍の前線基地になったのも、護りやすく攻めにくい地形上の理由によるところが大きかった
- ペリリュー海岸に大型強襲揚陸艦が乗り上げられなかったのは、この天然防波堤のためだった

PELELIU WORLD WAR II MEMORIAL MUSEUM



- 当時のパラオは日本が委任統治。国際連盟脱退後パラオは日本の重要な軍事拠
- 1941年ペリリュー島には1200メートル滑走路2本が交差し、上空からは誘導路含め 4 の字に見える飛行場が完成（東洋一の飛行場と呼ばれた）
- 米軍の目標はフィリピンの奪還
- ペリリュー駐在の日本軍からの攻撃を避けるため、米軍はペリリューの制圧を狙った

絶対国防圏と東洋一の飛行場



- パラオはフィリピンのミンダナオ島の真横に位置
- フィリピン奪還作戦を計画する米軍にとって、この飛行場の存在はわき腹に匕首を突き付けられているようなもの
- この飛行場を奪取すれば、日本の絶対国防圏内に不沈空母を得ることになる
- 日本はペリリューの他にアンガウル島にも1200m級の滑走路が作れる飛行場適地を持っていた

ペリリュー戦とは何だったのか？

- ミッドウェイで大敗、サイパン陥落（1944年6月15日～7月9日）後のペリリュー戦
- 太平洋戦争前半、敵を水際で撃破し、夜襲や万歳突撃で押し返す発想が強かった
- 日本軍司令部からの指示は「陣地を死守せよ」
- **中川州男中将**は島の奥へ引き込み、洞窟陣地・稜線・側射火力で少しずつ削る方針を取った
- 穏やかな丘に見えた場所が、実際には火力を隠す立体迷路として機能した
- 米軍は当初3日で終わると見込んでいたが、実際には73日続く闘いとなった

戦力の違いと被害の実際

- 日本軍総員　10,500人
- 日本軍装備　小銃5,066挺　軽機関銃200挺　重機関銃58挺　中迫撃砲約200門　軽戦車17両
- 米軍総員　48,740名
- 米軍装備　小銃、自動小銃41,346挺　機関銃1,434挺　拳銃3,399挺　火砲729門　戦車117両　バズーカ砲180基　戦艦5隻
- しかし米軍側は、死亡率もPTSDの発症率も非常に高かったと言われる
  その原因のひとつとして、日本軍の夜襲による米兵の不眠が挙げられる

PELELIU WORLD WAR II MEMORIAL MUSEUM
戦後2年を経て投降した34人の旧日本兵



- 終戦を知らずに、持久戦を続けた旧日本兵は35人だった
- みんな薄々日本の敗戦と終戦を感じていたが、それを口にすることは「非国民」を意味していたため、誰も口にすることができなかった
- ひとりの兵士が投降を決意し、射殺された
- 結果、終戦を知らずに取り残され、投降したとされる旧日本兵は34名に

34人は投降するまで何をしていたのか？

- 1944年11月24日、地下壕司令部で中川中将は幹部二人と共に自決
- その際**「根本大尉の指示で各個の遊撃戦を継続するよう」**訓示
- しかし根本大尉は55名の兵を率いて米軍に夜襲をかけ、11月27日に玉砕
- 残された34名は終戦を知るチャンスは多々あったが信じず、命令を守り続けた
- 米軍基地に盗みに入り食料を調達、軍服も盗んで着用し、米兵になりすまして米軍基地で上映された映画まで観ていた
- 1947年4月、海軍上等水兵・土田喜代一氏の脱走➡投降、日本から派遣された人物との説得により、34名全員が投降

詳しい経緯はひとりの兵士の証言を基にした『ペリリュー　楽園のゲルニカ』に





上映権の関係で、残念ながらパラオではまだ上映されていないとのこと

PELELIU WORLD WAR II MEMORIAL MUSEUM
日本軍の遺品　①衛生用品や医療機器など





PELELIU WORLD WAR II MEMORIAL MUSEUM
日本軍の遺品　②戦闘機器



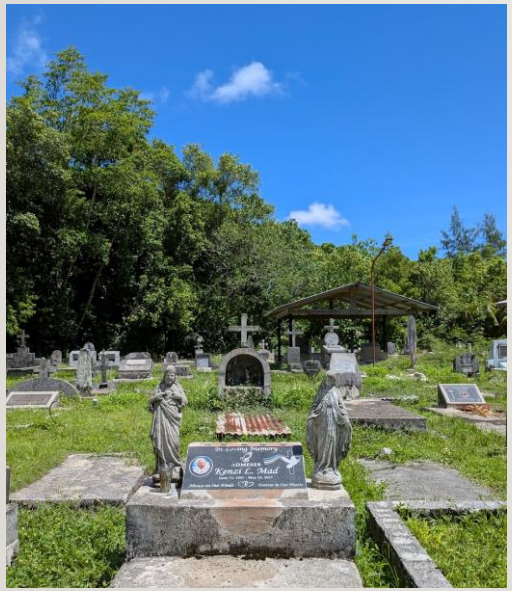




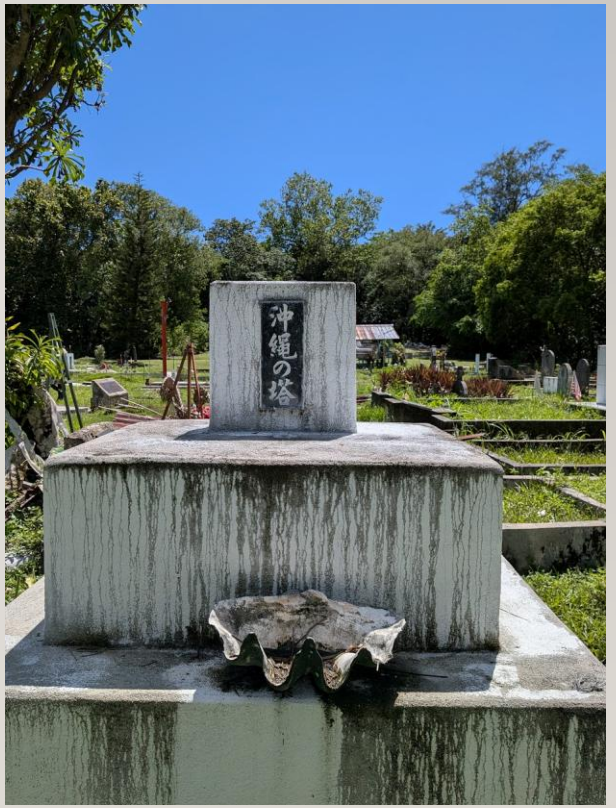
こんな取り組みをしている人たちもいるんだな💕

PELELIU WORLD WAR II MEMORIAL MUSEUM
日本軍墓地









PELELIU WORLD WAR II MEMORIAL MUSEUM
日本軍墓地②　中川州男中将



ペリリュー戦において、歩兵第2連隊長としてペリリュー島守備隊を指揮。

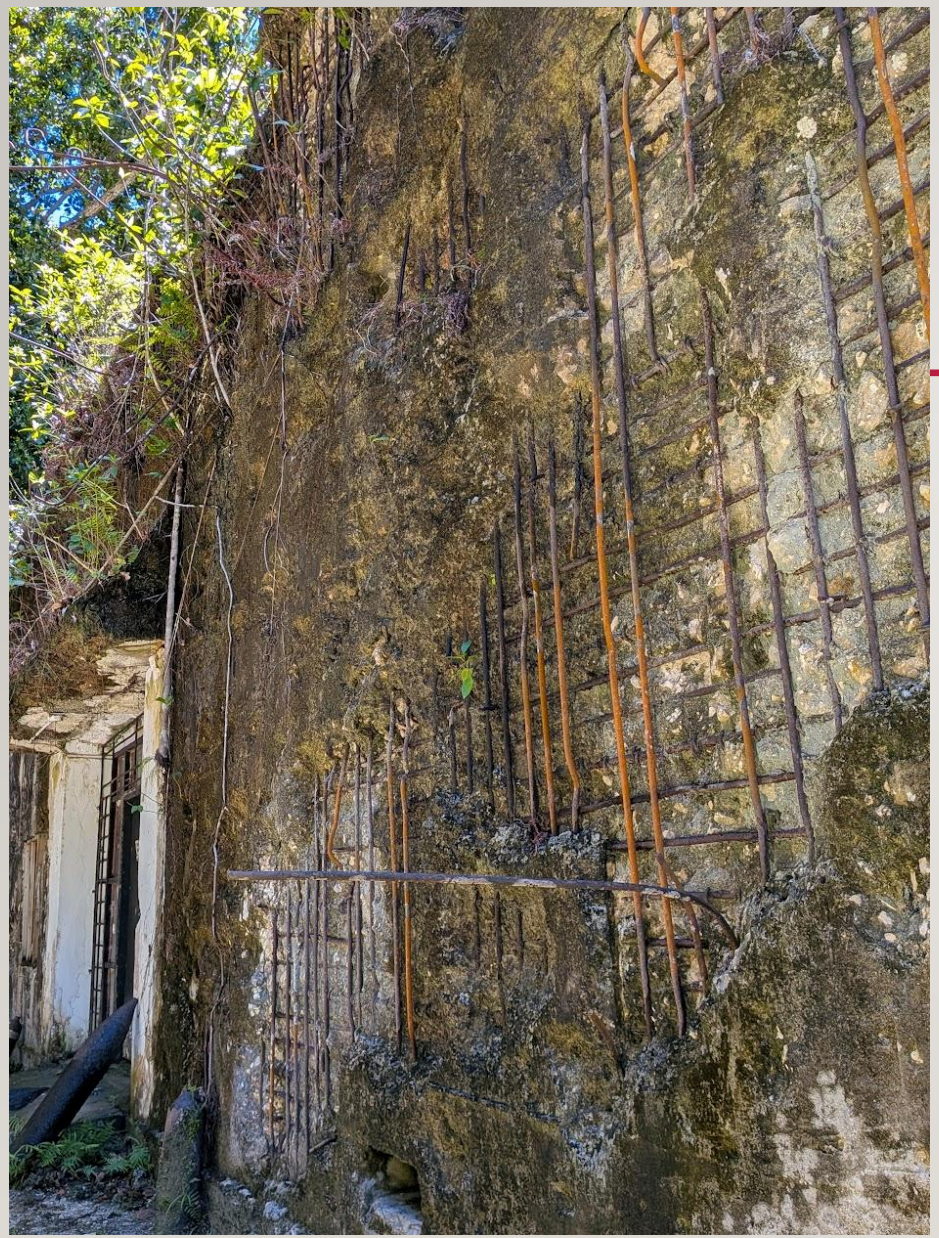
長くても3日で攻略できると楽観していたアメリカ海兵隊を相手に71日間に渡って組織的戦闘を続け、自軍の玉砕と引き換えにアメリカ海兵隊に多大な損害を与えたことで知られる。

石碑の言葉は嘘くさい。誰が考えたのか？

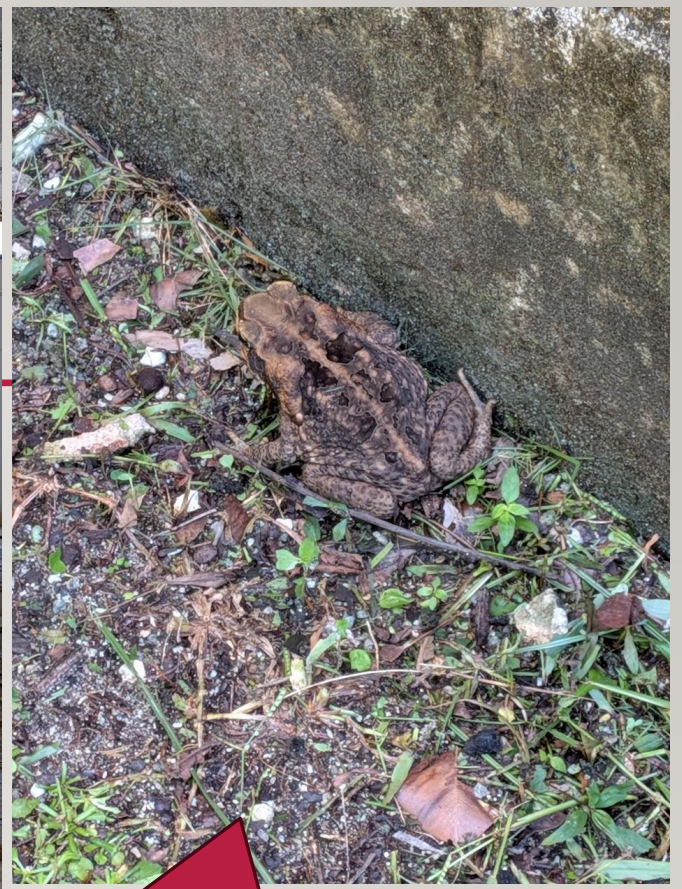
日本陸軍の弾薬庫跡



- 右側の小さな窓は米軍の攻撃によって破壊された跡。
- 元々は日本陸軍の弾薬庫で、その後米軍は傷病兵の病院として使用していた
- 終戦後は戦争博物館として使用されていた
- 数年前に博物館は現在の地に移転







オオヒキガエル、アメリカが持ち込んだ外来種　目の後ろの耳腺から毒を出す

そして何故か、広島で被爆した石が・・・

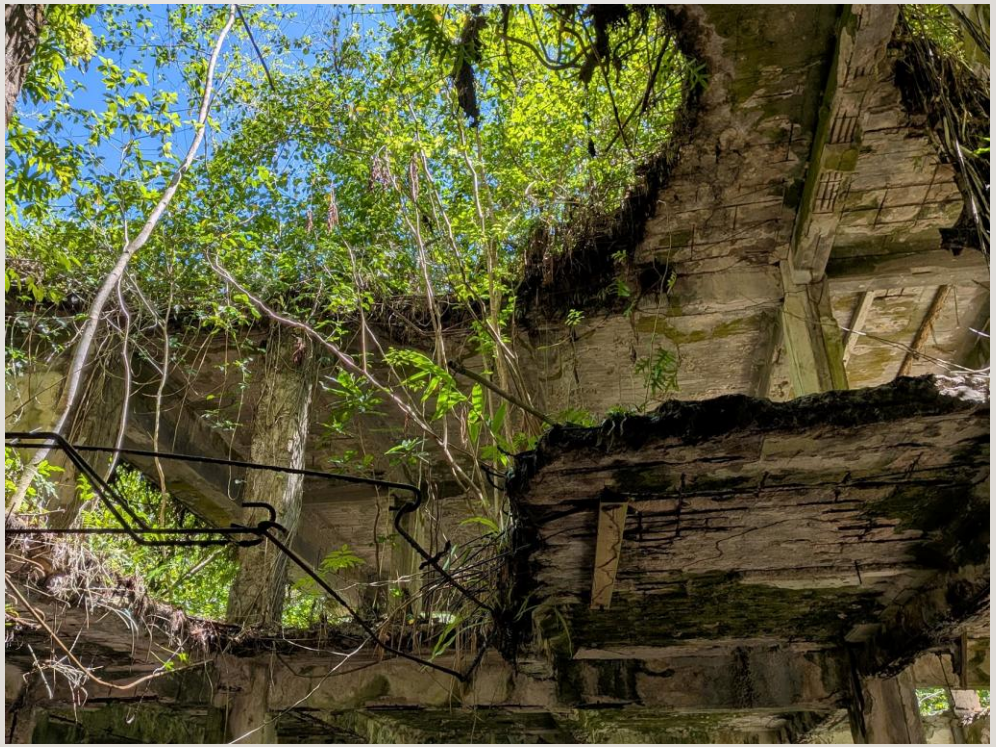




何らかの交流があるようだが、
詳しくは不明

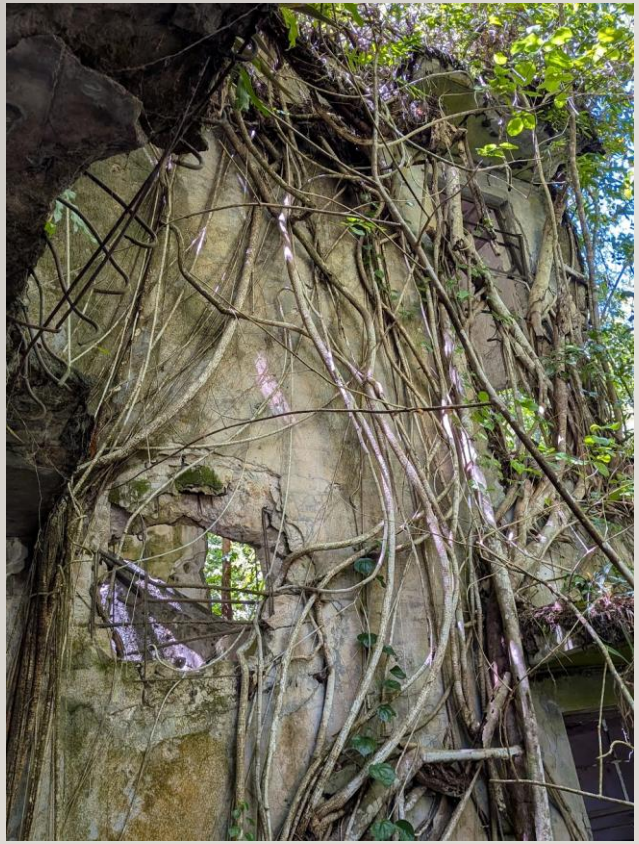
日本軍総司令部跡①
かつてはここから、かの滑走路が見渡せた







日本軍総司令部跡②

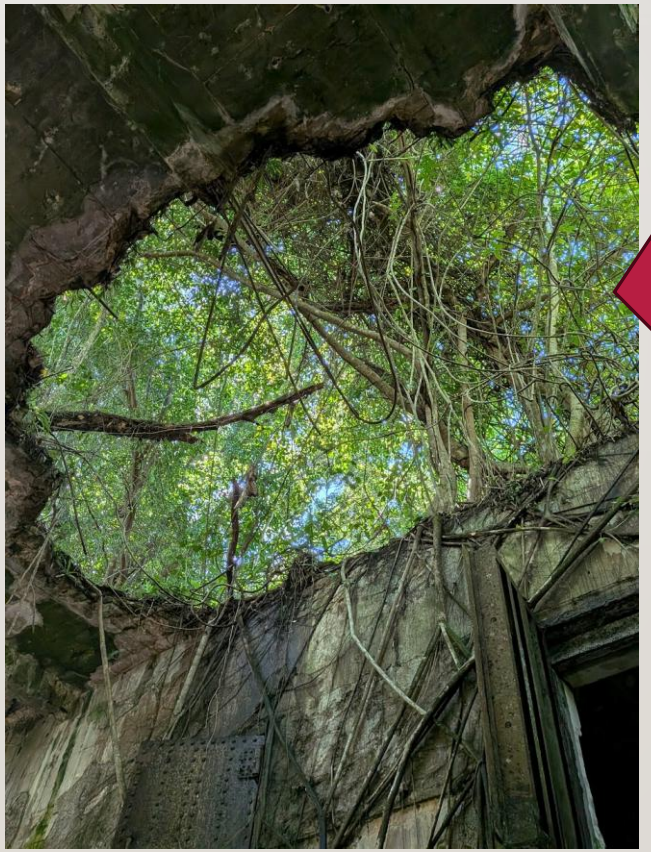






日本軍総司令部跡③





かなり朽ちてはいるが、柱などを見ると、当時は相当しっかりとした建物だったことがわかる

日本軍総司令部跡④





お風呂とトイレ

プライバシーは
なさそう💦

日本軍の戦闘機　一式陸攻の残骸

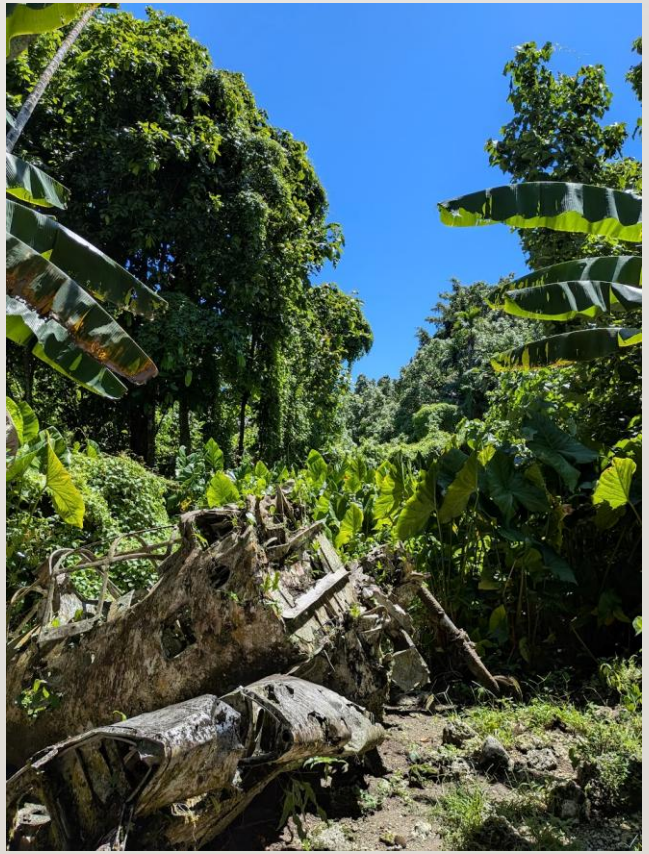






アルミ製、いかにもちゃっちい一式陸攻
急降下が苦手で、そこを狙って撃墜された







ペリリュー戦の原因となった滑走路
現在米軍が整備中（お金はアメリカが出している！）





その後の管理はパラオドクターヘリなどに使用か？
パラオには軍隊はない！

日本ならきっと、
日本政府がホイホイお金を出すのだろうが・・・





南ふ頭　①お弁当休憩





やたらと鶏が多い自由に動き回っているので筋肉が硬く、脂肪は少なく、美味しくないとのこと



南ふ頭　②天皇皇后両陛下御休憩所

わざわざ
作ったんだ～!!



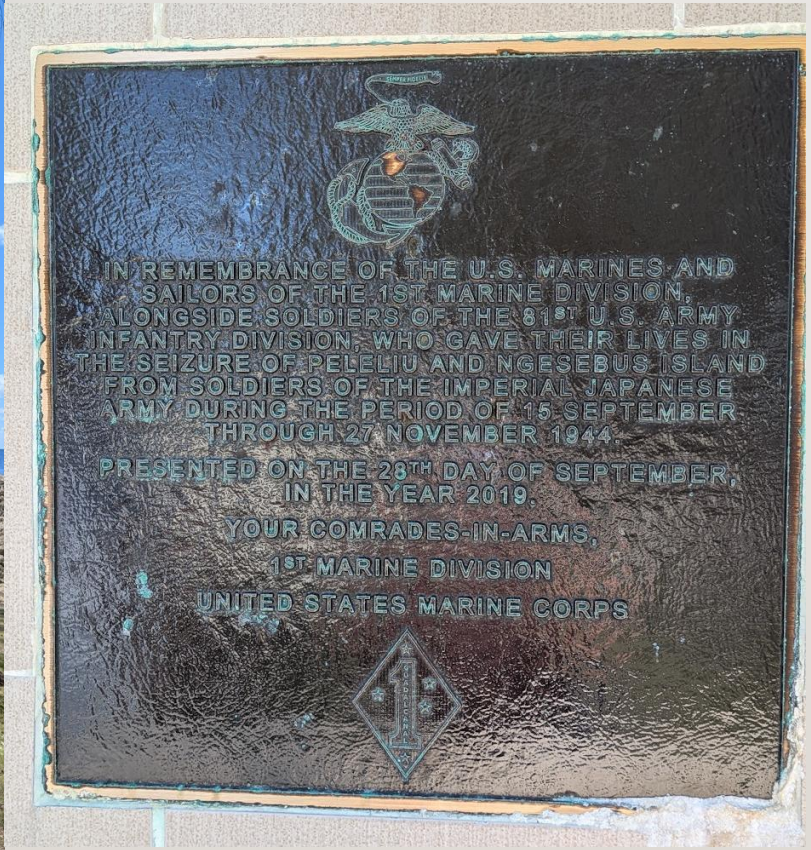




入場可・写真可だが、土足厳禁!! トイレも素足で・・・💦

南ふ頭　③第一海兵隊慰霊碑？記念碑？





ガダルカナルの闘いで圧勝した第一海兵隊だったが、ペリリューでは日本軍の強固なトーチカ（鉄筋コンクリート作ったげ堅固な防御陣地で、機関銃などを備えている）により艦砲射撃の効果も乏しく、撤退を余儀なくされた

旧日本軍の戦車
アメリカ軍はそれを「おもちゃ」と呼んだ!!







装甲があまりにも薄く、溶接していないのが特徴







一方、アメリカ軍の水陸両用戦車は・・・







アメリカではこれで、「トラック」扱い(@￣□￣@;)！！

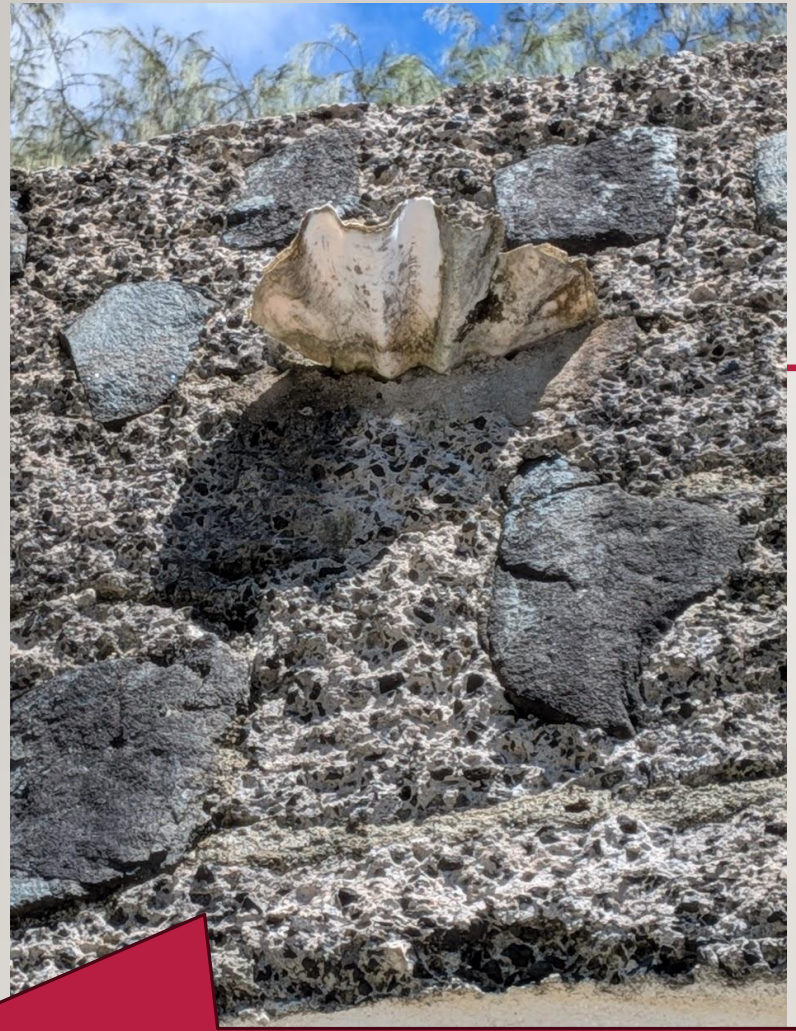
西太平洋戦没者の碑
ペリリューだけでなく、アンガウル・サイパン・グアムなど







ペリリュー島平和記念公園



島内には河川がなく、飲料水に適する水源は雨水とたった一つの井戸だけ。口渇の中で死んでいった兵士たちに水を捧げるための蝦蛄貝



雲に乗って、北（靖国）にともに帰ろうというメッセージを示している

平成天皇・皇后もこの地を訪れた

（2015年4月9日）





石碑に刻まれた二人の後ろ姿は、二人が訪れることのできなかったアンガウル島に向けてお辞儀した時のもの。アンガウル島の戦闘はペリリューより2日遅れた9月17日に始まり、9月30日には全面占領された。

オレンジビーチ

米軍が使用していたコードネームに由来する名前　日本軍の一斉射撃により、米兵の血で海が真っ赤に染まったとする説も・・・

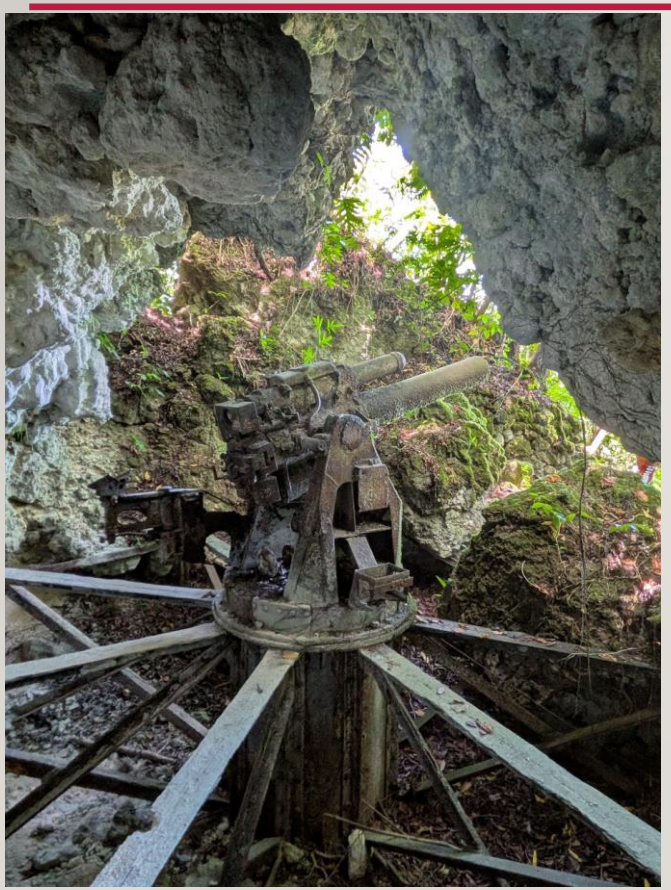




「ペリリュー地区隊戦闘指導要領」

- 当初の防禦・迎撃計画は、日本伝統の水際作戦
- サイパン・グアムの戦訓を取り入れ、成算のない一斉突撃などは厳に戒める作戦
- 最後の一兵になるまで戦う「徹底抗戦」が唯一最大の戦術

日本軍防空壕　大砲跡
この大砲で待ち構え、上陸しようとする米軍を銃撃。
海を米兵の血の色に染めた。







ペリリュー神社




昭和陛下御歌
道きしの人の御霊かど見つむ
ハラオなる海上を飛ぶ白きアジサシ
天皇陛下御製
戦ひにあまたの人の失せしとふ
島緑にて海に横たふ
吉田満
岸 小三郎

ペリリュー神社②


諸国から訪れる旅人たちよ
この島を守るために日本軍が
いかに勇敢な愛国心をもって戦い
そして壮烈な死をとげたかを伝えられよ
米大平洋艦隊司令長官


ペリリュー神社
清流社

ペリリュー神社③

米軍第一海軍
慰霊碑





パラオ地区集団の防備計画

- ペリリュー・アンガウル両島の築城は、「セメント・鋼材・石材などの資材を持って築城素質の強化を図ると共に、岩盤部を利用する地下施設を完整氏、熾烈な法爆撃に対し戦力の維持培養を図る」。
- 一部「永久築城による強化」も行い、洞窟と洞窟は内部に連絡路を設けて地上の敵に対して神出鬼没の作戦が採れるように構築。
- すなわち、水際の防禦陣地と山岳部の自然壕を拡大した一大地下要塞を構築

大山陣地







大山陣地

- 大山はペリリューの最高峰　オレンジビーチをも一望
- この山を中心に麓にかけて広がっているのが複閣陣地
- 中川州男中将率いた第二連帯最後の戦場
- 米軍側はBloody Nose Ridge「鼻血まみれの峰」と名付けた
- この谷に来る米兵の足を狙う　米兵は傷ついた兵士を放置しない　救助する米兵をまた狙撃する　そうしてこの地は米兵の血に染まった

複廓陣地とは？

- やむを得ない状況に追い込まれた場合でも長期間抵抗戦ができるように、幾重にも防禦を施し、弾薬や食料などを備蓄した陣地。
- ７月末には、大小500を超える各種陣地がほぼ完成した。
- 小は兵隊一人が入れる蛸壺状のもの
- 大は数百人も入れる洞窟陣地
- サンゴ岩の自然壕を巧みに利用した堅固なものだった

わずか３か月で作り上げた陣地

- 1942年6月ミッドウェイ海戦の惨敗、1943年2月、ガダルカナル奪還断念・退却
  同年5月、アッツ島守備隊全滅、同年7月、ニューギニアは地獄の戦場へ
- 同年9月、御前会議にて「絶対国防圏」を決定
- 守備兵力の増強のため、考え出されたのが関東軍配下の部隊の転用
- 1944年3月、兵士たちは零下30℃の極寒の地から、摂氏30℃の常夏の島へ送られた
- 4月に到着後、わずか３カ月で広大な陣地を築き上げた

当初、日本軍の被害は驚くほど少なかった

- 米軍上陸１週間前から、激しい艦砲射撃と艦上機の空襲
- 日本軍の飛行機はサイパン戦でほとんど失っていた
- 米兵は黒く焼けただれた、瓦礫の山と化したペリリュー島を見て、「こんな状況で生きている日本兵はいない」と思っていた
- しかし日本軍の被害は戦死者13名、重軽傷者21名、計34名
- 日本の守備隊は米軍の砲爆撃が続く日中は洞窟陣地にじっと身を潜め、夜になると迎撃の準備を続行していた

第一海兵隊が撤退を余儀なくされるほどの防備

- サンゴ礁のところから上陸100mまでの間は「防禦帯」、ひと1人は入れないように固めてある
- 海にも陸にも機雷や地雷をギッシリと敷設
- それまでの太平洋地域に敷設した日本の機雷を全部合わせて、それを５倍にしたもの以上の数
- 道路が交差したところ辺りには対戦車砲と自動火器で厳重に防備
- 内陸には戦車がどうしてもそこを通らなければならない誘導路を作り上げてあり、そこを通れば待ち構えていた火線に晒される恐ろし気な罠
- 野砲陣地と日砲陣地が小高い所に点綴　何度も何度も調べたり試したりして、どんな場合でも隙がないように苦心していた

中川中将終焉の地







今も各地に残る不発弾

FFEは処理済みの印
赤白の杭は白側は安全、赤側は危険を表している







1000人洞窟の中の野戦病院



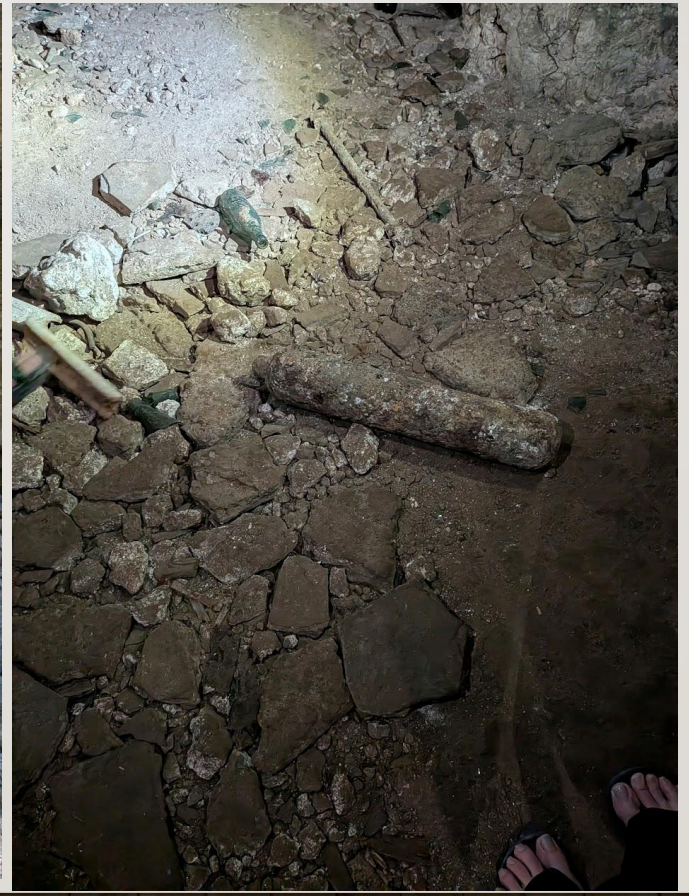


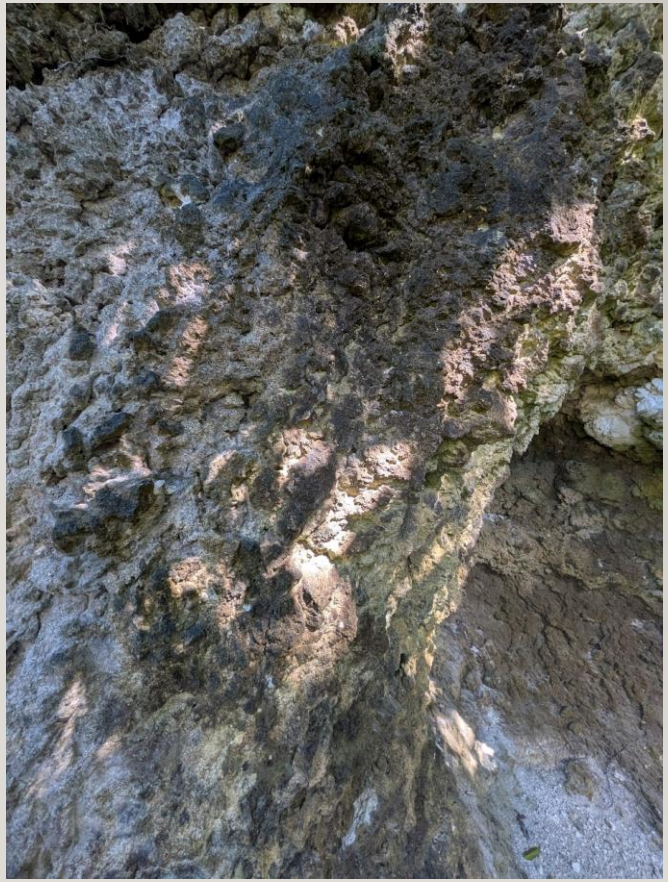
野戦病院

- 治療対象は作戦立案能力のある幹部と、治療によって戦線に復帰する能力があると見込まれる兵士のみ
- 野戦病院には若干の傾斜があり、傷病兵の流した血が奥に溜まらないように考えられていた

米軍による火炎放射の跡







米軍による火炎放射の跡





火炎放射とは

- 液体燃料を圧縮ガスで点火させることで、火炎を放射する兵器
- トーチカなどの建造物および洞窟といった閉所に対して使用すると酸欠をもたらし相手を窒息死させることができるため、籠城した敵を掃討するために使われた
- 肉薄兵器として対戦車戦闘に使われることもある
- 現在は使用を禁じられ、サーモバリック弾に置き換えられている

遙か彼方にスコールが





パラオの歴史

- 1885年、スペインがパラオを植民地に
- 1899年、フィリピンとグアムを除くスペイン領東インドを450万ドルでドイツ帝国に売却
- 1914年、第一次世界大戦。日本はドイツに宣戦布告し、パラオを含む南洋諸島を占領
- ドイツはパラオでココナッツ、タピオカ栽培、アンガウルにおけるリン鉱石採掘などの産業振興を行った
- そのため、ドイツは現地の人々を奴隷のように扱った

パラオは「親日国」か？

- 1914年、第一次世界大戦　日本はドイツに宣戦布告し、パラオを含む南洋諸島を占領
- 1919年、パリ講和条約によりパラオは日本の委任統治国に
- 日本はパラオに「南洋庁」を置き、多くの日本人が移り住んだ
- 1943年6月末時点の居住者33,960人の内訳は、内地出身日本人25,026人、朝鮮人2,460人、パラオ人先住民6,474人、他にスペイン人・ドイツ人宣教師18人
- 日本はパラオの人々を「民族的に劣っている」と見做し、「日本人化」を図ろうとした
- 決して「親日」ではなく、スペインやドイツの統治よりもマシだったという程度
- 空襲に巻き込まれ、死亡したパラオ人もいる　様々な思いがある

現在のパラオ

- 19944年、アメリカの国連信託統治から独立
- 現在のアメリカとの関係は「自由連合盟約（Compact of Free Association）」で、防衛などの一部をアメリカに委ねている
- アメリカにはパスポートなしで働きに行くことができる
- 現在、パラオ人の多くはグアムなどにNoパスポートで働きに行っている
- パラオ国内には若者がいない・・・💦

参考文献

玉砕の島ペリリュー　生還兵34人の証言
平塚 柾緒
PHPエディターズ・グループ発行



お疲れさまでした



ホテルのBarの
Happy Hour 💕